

西荻窪:狭間の町 ; 付録：道路・ライフライン・公共施設などが整っていく様子を年表で見る

西荻窪年表 (参考資料：・内田翁の喜寿を祝して諸家の渾毫 昭和27年11月1日発行 発行所:内田秀五郎喜寿祝賀会)

III-① 1975年(明治8年)～1905年(明治38年)

	日本・東京の政策・出来事	区画整理・道路・鉄道	公共施設(金融・福祉・衛生・学校)	ライフガイド(電気・水道・7電信電話)	農業	工場誘致	内田秀五郎
1875年(明治8年)～1905年(明治38年)	●1904年(明治37年)から1905年(明治38年)…日露戦争	●1891年(明治24年)…甲武鉄道荻窪駅	●1875年(明治24年)…桃井第一尋常高等小学校児童数184人				●1905年(明治38年)…井荻収入役就任(大蔵省的役)

I-①の明治二十七年の地図前後。現在の中央線である甲武鉄道の荻窪駅ができる。まだ小学校の児童が184人である。

III-② 1906年(明治39年)～1915年(大正4年)

	日本・東京の政策・出来事	区画整理・道路・鉄道	公共施設(金融・福祉・衛生・学校)	ライフガイド(電気・水道・7電信電話)	農業	工場誘致	内田秀五郎
1906年(明治39年)	甲武鉄道国鉄化・中央線沿線の戸数増加に伴う電化計画	甲武鉄道国鉄化→中央線	桃井第一尋常高等小学校児童数500人				
1907年(明治40年)							井荻村長就任
1908年(明治41年)			井荻村貯金組合				
1911年(明治44年)			井荻教育会設立				
1912年(明治45年)		中央線中野駅					
1915年(大正4年)			慈善会設立(病院の前身)				

甲武鉄道が国有化(現在のJR)に施策として、沿線の電化計画が出される。住民の増加してきたため小学校の児童が500人に増えている。また、金融機関・病院といった都市化にかかせない公共施設が設立されて。

III-③ 1916年(大正5年)～1923年(大正12年)

	日本・東京の政策・出来事	区画整理・道路・鉄道	公共施設(金融・福祉・衛生・学校)	ライフガイド(電気・水道・7電信電話)	農業	工場誘致	内田秀五郎
1918年(大正7年)	土地調査		東京女子大				
1919年(大正8年)	道路法発布・施行	管内全道路実現(203号線を町村道路認定)・中央線吉祥寺駅					
1920年(大正9年)	大都市計画発表(30年後人口が平方里25,000千人・一人あたり31坪目標)				土地売買(→人口の増加)		
1921年(大正10年)		北銀座通り整備		電気を引く			
1922年(大正11年)		西荻駅(北口のみ)		天沼1-85に郵便局電話取扱所設置			
1923年(大正12年)	●1923年(大正12年)…関東大震災						

関東大震災が起こる前までに、土地調査・道路法発布に伴い、道路の整備が行われ始める。大都市計画発表に伴い、家屋でない土地の売買が行われ、家屋が立ち、人口が増加する素地ができる。また、電気・郵便局等のライフガイドが整備される。そして、震災前には西荻駅ができる。

ここからも、関東大震災前に都市化が行われ、人口が着実に増加していたことがうかがわれる。

III-④ 1924年（大正13年）～

	日本・東京の政策・出来事	区画整理・道路・鉄道	公共施設(金融・福祉衛生・学校)	ライフライン(電気・水道・7電信電話)	農業	工場誘致	内田秀五郎
1924年 (大正13年)		東京女子大に向かう 女子大大通り賑やかに		電話交換設置		中島飛行機設置。そ の税収が村民の税収 より多くなる。	
1925年 (大正14年)		中島飛行機誘致に伴 い井荻村インフラを工 場周辺に整備					
1926年 (大正15年)	杉並警察署	●駅より西方道路開通		上下水道計画遂行			
1927年 (大正16年)			杉並信用組合(現・東 京信用金庫)				
1932年 (昭和7年)	井荻村、東京市に編入	井荻地区区画整理完 了	消防署井荻出張所 (荻窪八幡神社前)				
1936年 (昭和11年)		西荻駅乗降者 二万 人/1日					
1938年 (昭和13年)		西荻駅南口開設	町勢拡大のため荻窪 警察署(荻窪八幡神社 前)				

工場誘致による税収の増加と人口の増加で都市化により拍車がかかっていく。また、1922年に駅ができたことにより、駅を中心として道路の整備がなされる。地図からもうかがえるように、駅を中心として都市化が進んでいる。(木村史子、ファーラージェームス、1月27日2018年)